

2005年1月28日プレスリリース

Ref.:947

<http://www.iso.org/iso/en/commcentre/pressreleases/2005/Ref947.html>

ISO 社会的責任規格開発の開始準備

社会的責任ガイドラインの国際規格開発を行う ISO グループの第 1 回会議が 2005 年 3 月 7 日～11 日にブラジルのバイーア州のサルバドール市で開催される予定である。ISO はこの規格を 3 年で開発し、2008 年の初旬の発行することを見込んでいる。

この規格は、社会的責任(SR) 原則を与えるものである。SR 規格はマネジメントシステム規格や認証目的の規格にはならない。

最近、ISO のメンバーを構成している各国の標準化機関は、ほぼ全てのビジネスと技術分野の利益になる 15000 規格以上を発行している ISO の新しい業務項目として SR を承認した。投票した 37 カ国のうち、32 カ国が SR 規格開発への参加を表明した。

作業は、特別に構成された ISO 社会的責任ワーキンググループで執り行われる。

来る第一回会議では、主に、将来の作業項目や以下の事項について、方向性を決め、議論することに焦点が当てられる：

- ・ワーキンググループの構造と委任事項
- ・SR ガイドライン規格の構造
- ・作業計画
- ・サブグループの議長、事務局の任命

SR 規格化開始についての途上国メンバーから強い支持があり、SR ワーキンググループのリーダーシップの任命の過程で、ISO は、途上国からブラジル(ABNT)、先進国からスウェーデン(SIS)の標準化機関を選挙した。

議長は、Mr. Jorge E.R. Cajazeira (Excellence Programme Corporate Manager of the Suzano Group's Pulp and Paper Division, of Brazil)、副議長は Ms. Catarina Munck af Rosenschöld, (Manager Corporate Citizenship, of the Volvo Car Corporation, Sweden) である。事務局は、Ms.Kristina Sandberg (Sector Manager, Management Systems, SIS) で、副事務局は Mr. Eduardo Campos de São Thiago(Coordinator of International Relations, ABNT) である。

Mr. Jorge E.R. Cajazeira は、透明性と付加価値を与えることを強調することで SR グループの作業は注目されるであろうと言った：

「ISO の将来の SR ガイドライン規格は、政府、労働界、これまで ISO とのコンタクトが限られていた非政府組織の様なステークホルダーグループの大きな関心である。

私たちは、作業の公開性や透明性を含め、ISO の基本的原則を実施しながら、彼らと効果的に取り組むために、おそらく革新的になる必要があるだろう。」

「更に、ISO の作業は価値を付加するものであり、国連の世界人権宣言や、国際労働機関(ILO) や他の国連条約の様な、社会的責任に関連する既存の国際政府合意を代替することを意図していないことを強調する。」

「ISO は、透明性を確保しコミュニケーションを促進する、国際的なコンセンサスに基づいた基本的原則を開発することにより価値を付加することができ、SR 分野に関する意義のある比較をすることができる。」

副議長の Catarina Munck af Rosenschöld は、特に、途上国や資源が限られたステークホルダーグループからの参加を容易にする為の、資金調達のミッションを持つ財政援助とステークホルダーエンゲージメントのタスクグループを先導することを任命された。

彼女は「ワーキンググループの中で、世界の社会的責任に関するエキスパートの大半と連携する努力をする。参加者が、様々な専門分野、機関を代表し、多様な SR ステークホルダーからのインプットが実質的な基礎を与えてくれることを私たちは期待する。」とコメントした。

「私たちは、世界中の組織が社会的責任に取り組みについて、制定し、実施し、維持し、改善する際に役立つ、グローバルに関連するガイド原則を開発することを熱望する。」

ISO の社会的責任の開始に関する詳細情報参照：www.iso.org/sr